

一般社団法人日本社会福祉学会 会長就任にあたって

一般社団法人 日本社会福祉学会
第5期（通算第26期）会長 岩崎 晋也（法政大学）

5月29日の総会で選出されました新理事会において第5期会長に選出されました。浅学非才な私で、歴史ある本学会の会長が務まるのかとの不安もありますが、役員のみなさまのお力添えをいただき、自らの微力を尽くすことでその責に応えたいと存じます。会員のみなさまにおかれましても、学会運営に一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私はこれまで、学会の役員として、総務担当理事・事務局長を2期、研究委員会・大会運営委員会委員長を1期、務めさせていただきました。その間、学会の法人化、会員管理のオンライン化、全国大会の春大会と秋大会の分離、そして全国大会運営における開催校実行委員会方式から学会直営方式への変更などに関わってまいりました。そして私は直接関わっておりませんが第3期理事会では、学会事務局業務の国際文献社への全面委託を行っていただきました。これらの変更は、5,000人という学会規模の巨大化にともない、せざるを得ない改革であったと思います。

そしてこうした学会規模の巨大化は、会員相互の顔が見える学会から、様々なアプローチから社会福祉に関心をもつ多様な会員によって構成される学会に変貌したことを意味するのではないのでしょうか。とすれば、多様化した会員ニーズにこれまでの学会活動が十分に答えられているのかが今問われなければならないと考えます。

そこで第5期理事会では、改めて会員のみなさんのご意見を伺いながら、全国大会の春大会・秋大会、地域ブロックで開催する日本社会福祉学会フォーラム、機関誌、学会賞、国際協力、地域ブロック活動等のあり方について検討し、学会としての中期ビジョンを策定していきたいと考えています。

また前期から引き継ぐ課題である、全国大会秋大会における口頭報告等のあり方の問題、また近年増加している研究倫理に関する問題については、それぞれ特別委員会を設置して、新たな提案を会員のみなさまにさせていただく予定です。

学会の存在目的は、会員の学術の振興に資するだけではありません。社会に対して社会福祉学の観点から発信することも必要です。第4期理事会では、岩田会長が呼びかけ社会福祉系学会会長共同声明としてだした「戦後70年目の8月15日によせて」など、時に応じて会長声明等の社会的発信を行ってきました。また、HPの内容も一新し、高校生向けのパンフレット「社会福祉学を学ぼう—今の社会は福祉抜きでは成り立たない—」を掲載するなどの発信も行ってきました。第5期理事会も、こうした姿勢を継承し、学会としての社会的発信を継続していく所存です。

最後に、重ねて会員の皆様のご理解とご協力をお願いし、会長就任のあいさつとさせていただきます。